

平成 23 年度（2011 年度）事業報告書

2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日

- | | | |
|---|--------|--------------|
| ① | P3-P4 | 会長メッセージ |
| ② | P5-P8 | 平成 23 年度活動総括 |
| ③ | P9-P10 | 詳細資料 |
| ④ | P11 | お知らせ |

2012 年 6 月 25 日総会

認定 特定非営利活動法人

C. P. I. 教育文化交流推進委員会

これからの助け合い社会の実現に向けて、がんばりましょう

大切にしたい、私たちの〈持ち場〉

C.P.I.の会員さんのなかにも東日本震災あるいは原発事故で困っている方がいらっしゃいます。その方々のためにも、早い復興がのぞまれます。私は昨年、当会の機関紙等で、東北地方・太平洋地震で被災された皆様に謹んでお悔やみを申し上げ、復興にあたっておられる方々にインドネシアの地震・火山噴火被災救援の現場から連帯の挨拶を申し上げました。一年前を振り返ってみたいと思います。

私は日本での被災がおきた昨年の3月11日の前日、ジョグジャカルタ近郊での地震・火山噴火被災により母子家庭となった人々の自立支援プロジェクトを立ち上げたばかりでした。その直後、中央政府の皆さんと事後の昼食会をしておりましたときに日本での被災情報が入りました。私がインドネシアでの被災救援をしている当事者であることから、その場におられた国会議員や社会活動省(救援予算を仕切る役所)高官等から、日本への救援について意見を求められ、いくつかの提案をさせていただきました。

義援金・救援物資は、被災地である宮城県に直接に贈るほうが、効率よく被災者に届くこと。現地で救援に入った NGO は避難所の様子を細かく調査しているので、必要な物資と輸送方法についてもっとも解っており、情報をそこから入手するほうがよいこと。物資はインドネシア内で調達するほうが、資金が有効に活きるであろうこと。以上の3点を申し上げました。関係筋からは後日、「よい提案をもらったことに感謝する」と伝えられました。

その後、インドネシアのユドヨノ大統領が大震災の被災地である宮城県気仙沼市にある避難所を訪れ、政府義援金 200 万米ドル(約1億 6,000 万円)を贈呈されたのは記憶に新しいところです。それに先立ち、インドネシア政府は、震災直後3月17～27日に15人の救援チームを派遣され、宮城県・気仙沼市や石巻市で活動、同月17日に毛布1万枚と約5トンの飲料水を日本へ輸送、5月初めには15トンの缶詰を宮城県に贈るなど積極的に支援をされています。

私が、日本での震災直後にインドネシアにいたことによって、インドネシアの皆さんが被災地の皆さんに速く効果的な救援を行うについて微力ながらお役に立てたとすれば、有難いことだったと思います。

国際協力団体のなかにも、日本の震災のために寄付を大規模に募っている団体があります。「なぜ C.P.I.は義捐金を募らないのか」という声もありました。義捐金活動をしなかった理由は、C.P.I.の〈持ち場〉を大事にしたからです。

スリランカやインドネシアで、教育里子の家庭が被災したとき彼らの家庭を救うことができました。そのときも被災全体に対する義捐金募集はしませんでした。今回の日本国内の被災の場合でも、現地にいた私は私の〈持ち場〉で行動し、また、多くの会員さんが個人的に被災地への救援活動をされました。「それぞれ、被災地のお役に立ててよかった」のひと言に尽きると思います。これが、C.P.I.のメンバーの真骨頂であります。

皆さまがたは、『ひとりが人々を想い、人々がひとりを助ける社会づくり に手を貸して、スリランカやインドネシアに友人をつくりましょう』という、C.P.I.の一員としての〈持ち場〉をもっておられます。どうか、それを維持して戴きたく存じます。

助けあい社会の確立には、支援の側に、 『気持ちの根っこ』が必要です

一昨年 11 月に発行したステューティ新聞で、同年 9 月 18 日に開催した SNECC との共催シンポジウムの全容を掲載致しました。「**助けあい社会の確立が求められる**」とのシンポジウムのテーマは、ますます必要となっています。

パネラーの皆さんのご発言が思い出されます。「子どもたちは、生まれる国を選べない、生まれるときの環境を選べない。だから、周囲の人々は子どもたちを温かく見守り助け、そうすることで自分たちの心を豊かにするようにはしていかなければならない」(ふれあい学舎里見理事長)

「NGO の活動は、その目的とあった活動をきちんとしているかどうか問われる。きちんと活動している人々のいる NGO に対しては、一般社会や政府の人々も、共に活動したいと言ってくるものだ。C.P.I. や SNECC は、そうであるが故に、Cooperative Organization for Society (CIS) なのだ」(SNECC チャンダシリ事務局長)

このような言葉には、確かなものがあります。

私たちが支援する受益者は、次の瞬間には他の人々を助け喜ばず人になる、と信じましょう。

その気持ちをもって、私たちが、一人ひとりの<持ち場>で、困窮してはいるが頑張っている人々のことを考えるなら、教育里子たちへの支援あるいは現地困窮者を支援する活動と、東北の被災のあと復興に励んでおられる方々を支援する活動は、同じ『気持ちの根っこ』があるからこそ連帯できるのだと、ご理解いただけたと思います。



現地の人々の気持ちに、応えたい

スリランカのセンターからの手紙を紹介いたします。

『昨年 3 月 11 日に起こった地震による津波被害において、日本はとてもひどい被害を受けました。第 2 次世界大戦後の一番大きな被害ではないでしょうか。日本では常に、地震が起こっています。防災のすべをよく知っている日本といえども、今回の地震には通用しないほど、大きな被害でした。インド洋地震でスリランカに起こった 2004 年の津波を思い起こさせます。

また、津波の被害はもとより、それよりも大きな被害をもたらすであろう、原発の被害も起き、放射能漏れについて世界で注目されています。

このことは、とても衝撃的でこの先も心配が絶えません。我々の支援団体である、C.P.I. の里親さんにもこの災害の被災地の方々が 15 名いらっしやるとお聞きしました。

そのことも胸を痛めております。そこで、昨年、C.P.I. の小西会長とも話し、スリランカ日本教育文化センターより、津波災害に際し、2 つの活動を立ち上げ、実行しました。

- 1、津波によって亡くなった方々へのご冥福と被災された方々に心から安心した生活が戻るよう全国でお祈りの会を行うこと。
- 2、私たち教育里子の卒業生を含む里子たちによる、スリランカ全国での募金呼びかけ

これらの活動に、スリランカー日本友好議員連盟会長がアドバイザーとして参加してくださいました。どうか、この悲しみを力にかえ復旧されることを心から祈っております。

C.P.I. の会員の皆様への感謝をお伝えし、また笑顔で皆さんとお会いできることを心より願っています。』

私たちは、インドネシアやスリランカの人々の気持ちに応え、教育里親運動の新たな芽が吹くよう、頑張っていきましょう。

助け合いの『気持ちの根っこ』を持ち続け、私たちの『持ち場』の維持にがんばりましょう。

平成23年度（2011年度）活動の総括

1. 教育里親制度プログラム（定款第七条1項1号）

(1) 学校成績優秀または技能卓抜な学生で、家庭経済に困窮している者を選考し支援した。

① スリランカ SNECC との協働（資料1-(1)に詳細）

教育里子数 642 名（前期 666 名）に対し、教育里親口数 569 口（前期 621 口）で 1,400 万円の教育里親支援を行った。

（註）9年生 209 名、10 年生 77 名、11 年生 56 名、12 年生 109 名、13 年生 3 名（2011 年に初の AL 試験）、13W 生（2011 年に再度 AL 試験）188 名。

② インドネシア PPKIJ との協働（資料1-(2)に詳細）

教育里子数 265 名（前期 302 名）に対し、教育里親口数 205 口（前期 226 口）で 517 万円の教育里親支援を行い、また PPKIJ 調査等活動に対して 295 万円を特別会計から支援した。

（註）中学3年生 16 名、高校1年生 62 名、高校2年生 87 名、高校3年生 64 名、大学1年生 18 名、大学2年生 18 名。

(2) 正会員に対して、教育里子の状況報告を行なった。

① スリランカ——OL 試験結果・AL 試験結果・年末報告および現地会報の発行を行った。

② インドネシア——年末報告および現地会報の発行を行った。

(3) 会員に「教育支援」の成果を実感して戴くよう努めた

年末の教育里子報告に加え、会長が地域巡回をして現地報告の充実に努めた。

(4) 平成23年評議員会建議を受けて、教育里子の選考地域および選考基準の見直しを図っている。

このことについては、現地会報『ステューティ』と『クルアルガ』で公開した。

① スリランカでは、新たな選考地域として、テロリストと政府軍との戦いで疲弊した地域（ジャフナ等の3地域）での支援活動を2012年から開始するために、地域リーダー決定・教育里子の選考・教育里親が訪問するときの宿舎等準備を行なった。

この地域では、タミール人の子どもたちを100名ほど教育里子として選考した。

現地デイリーニュースでは、「C.P.I.Japan と SNECC は、教育支援を通じてタミール民族とシンハラ民族の融和を図る活動に入った」との報道が行われた。

② インドネシアでは、地域センター8ヶ所で、教育里子選考の見直しを開始した。

2. 教育開発活動（定款第七条1項2号）

(1) スリランカの奨学制度で、芸術分野の学生を支援している。彼らの発表の場をつくった。

C.P.I.の教育里子のなかには、絵画・音楽・舞踊など芸術分野で能力が高い学生がいる。

これまで絵画コンテストは行なってきたが、本年から、音楽・舞踊の学生の発表の場を設けることとなり、第一回の発表会が2012年3月に行われた。今後、毎年催しを行う。



(2) インドネシアにおける教育開発

- ① 2011年4月1日にインドネシア政府内務省との間で協働契約を更新した。内務省は、次の3項目について、C.P.I.が望む地方政府等の関係者会議を助ける等の役割を負ってくださる。

- 協働1. 教育里親制度プログラムで優秀な成績の学生の勉学継続を支援する活動を推進する
協働2. 教育開発または能力開発についてアイデア段階から協議を行い実現へ向かい協働する
協働3. 文化・習慣の多様性を理解し、助け合い、融和する「多様性のなかの統一」の精神に沿って、国際あるいはインドネシア内各地間の交流を推進する活動を協働する。

- ② 2011年度に行なった協働活動は、次のとおり。

1. C.P.I.-PPKIJ がチアンジュールで運営しているコミュニティカレッジ(正規 SMK=職業訓練を行う、国家資格のとれる高等学校となっている)は、第一段階、薬剤師養成を行なっている。実験器具や実験材料の充実が必要である。企業の CSR(社会に対する協力責任)プログラムと組むために、政府から後押しをして戴けるよう働きかけ、成果をあげている。



C.P.I.-PPKIJ 高等学校の教育里子たち



C.P.I.-PPKIJ 高等学校の先生たち

2. ジョクジャカルタ近郊では、地震と火山爆発の被災によって打撃を受け男手をなくした母子家庭を救援する必要がある。(C.P.I.の教育里子の家庭にも、救援を必要とする家庭がある)そこで、2011年度から、インドネシア女性組合(KOPWANI)との協働で、物づくり技能を教えその間の生活維持のためにマイクロファイナンスを行い、中小企業金融組合の協力を得て、効果の出る支援を行なっている。2011年度は25グループ132家庭を支援した。



そば屋を起業した人。



絞り染のバティックを製造するグループ

3. 中部ジャワの水資源を担うウンガラン山陵地帯では毎年水量が減っている。問題は、土地なし農民が生活のために森の伐採を行う行為を取り締まれないことにある。C.P.I.と世界銀行は、2005—2007年で成果をあげたJSDF(日本社会開発基金)プロジェクトの手法により解決を図ることを考え、中部ジャワ政府およびスマラン郊外市政府と協議を進めてきた。本件の課題における問題の構図はインドネシア各地にみられるものであり、本

件の解決手法は、水資源の問題解決と土地なし農民の生活安定に関するモデルとして有効である。C.P.I.は内務省に対して視察を要請し、2011年11月に完了に持ち込んだ。2012年度中に世界銀行－内務省の国際契約成立を目指し、ファシリテーターの役割を果たしたい。



世界銀行担当者(左から5人目)との協議



高地貧困救済モデル：第一次 JSDF プロジェクト

4. インドネシアにおける交通問題は、政府の視点がインフラ(主幹道路整備・公共バスレーンなど)の整備のみに向いており、子ども、妊婦、老人、身障者など弱者のための交通安全の視点をもてなかったことにある。このことは、国際的に同じであり、C.P.I.は1997年に、JBIC とのパートナーシップ活動として提案したが、「教育で交通安全は実現できない」との JBIC 現地事務所の判断で立ち消えになった経験がある。この傾向は、2008年まで続いていた。

2009年になって、国連は「交通安全は、ポリオ等重要疾病撲滅と同レベルの実現目標」との歴史的決定を行った。さらに国連は、2010年には、NGO による交通安全調査、政府による施策を視野に入れ、巨額な資金による交通安全ファシリティ基金を設置した(運用責任者＝世界銀行)。

C.P.I.としては、長年の目標に向けてプロジェクト推進を行う機会がおとずれたと言える。

そこで、かねてよりこの問題を協議してきた南スラウェシ州マカッサル市のモハマディア大学および、マカッサル市・日本政府マカッサル駐在所長とで推進協定を結び、さらに専門家間の連携を得るため、日本大学理工学部土木工学科交通研究所とモハマディア大学との間で協力協定を結んで戴いた。2011年9月 20 日には、日本大学島崎教授を講演者としての国際セミナーを南スラウェシ州マカッサル市で開催できたのは、このような経緯によるものである。

今後は、内務省と連携をとり、関係省庁・NGO・マカッサル市および世界銀行の合同会議を行い、『子ども、妊婦、高齢者の視点からの交通安全』に係わる調査と提言に係わる予定である。NGO は、大学・市民防災安全委員会・高校生交通安全委員会などを組織する必要がある。なお、世界銀行は、国連交通安全基金の運用者として資金面の要を期待されている。



右から二番目、日本大学・島崎教授



質問する女子学生会の会長の女性

4. 交流活動（定款第七条 1 項 3 号）

(1) スリランカへの里親一里子交流ツアーを実施

2011年8月26日～9月2日、団長：牟田理事で教育里子との交流等ツアーを行なった。



それぞれの方の教育里子との交流には、日本語クラスの先生たちが通訳についています。

(2) インドネシア協力学校への『折紙テキスト』の頒布のフォロー活動

日本の教育文化を学んでもらう活動を日本折紙協会と協働し、2011年度も引き続き、協力学校へのテキスト頒布を行った。「先生の派遣を望みたい」との声に応える動きが日本折紙協会の中にある。

(3) 東京・代々木公園のインドネシアフェスティバル2011に参加し、チャリティ募金の成果を発表した。



[詳細資料]

1. 教育里親制度プログラム (定款第7条第1項第1号)

(1) スリランカ協力団体 SNECC との協働

教育支援の明細

(付表-1) SNECC への教育支援金の前期—当期の実績比較 (里親数は支援金完納数 単位:千円)

	2010年	2011年	2010年度の備考
	実績	実績	
里親数/CPI 里子数(人)	621 / 666	569 / 642	
学用品費	4,408	4,249	学用品: 制服、ノート、かばん等
毎月支給奨学費	9,369	9,031	補習クラス、特待生補助、通学バス、薬代等
年内支給奨学費	1,223	720	通学靴、制服仕立費、写真代等 (09年研修旅行費あり)、
(小計①)	(15,000)	(14,000)	教育里親からの支援金および特別会計にて賄った
地域ボランティア費			地域センターの日常活動実費補助
調査・報告作業費			SNECC による教育里子選考・日常把握・ 報告等活動費
(小計②)	(0)	(0)	SNECC により賄っている
合計	15,000	14,000	

(2) インドネシア協力団体 PPKIJ との協働

教育支援の明細

(付表-2) PPKIJ への教育支援金の前期—当期の実績比較 (里親数は支援金完納数 単位:千円)

	2010年	2011年	2010年度の備考
	実績	実績	
里親数/里子数(人)	226 / 302	205 / 265	コミュニティカレッジの奨学生 56 名を含む
中学生学費	323	222	学費の支援
高校生学費	2492	2953	
中高生試験費	97	351	中高生試験費、卒業試験費の支援
大学生学費	663	623	大学1、2年生までの学費支援
教育里子会の活動	1,095	1663	教育里子の集会・彼らの社会活動などを支援
調査・日常把握等	830		地域リーダー・アシスタント電話・郵送・交通費等実費
電話・郵便・交通費等			現地の地域経費
(小計)	(5,500)	(5,812)	
卒業生会活動			
会議・調査等活動実費	(2,078)	(2,306)	
合計	7,578	8,118	うち 2,948 千円は、特別会計から賄った。

2. 2011 年度 県別教育里親登録口数 推移表（期末現在）

（INはインドネシア、SLはスリランカ）

県別	期首	新規	退会	期末	IN	SL
北海道	20	0	5	15	2	13
青森	5	0	0	5	1	4
岩手	1	0	0	1	0	1
宮城	7	0	0	7	3	4
秋田	3	0	0	3	1	2
山形	4	0	0	4	0	4
福島	10	0	0	10	4	6
茨城	34	0	1	33	9	24
栃木	5	0	0	5	1	4
群馬	6	0	1	5	3	2
埼玉	53	1	2	52	10	42
千葉	59	0	7	52	18	34
東京	215	4	16	203	61	142
神奈川	112	0	4	108	26	82
新潟	6	0	0	6	0	6
富山	0	0	0	0	0	0
石川	2	0	0	2	0	2
福井	2	0	1	1	0	1
山梨	9	0	0	9	5	4
長野	11	0	0	11	3	8
岐阜	6	0	0	6	3	3
静岡	25	0	0	25	6	19
愛知	5	0	0	5	1	4
三重	4	0	0	4	1	3

県別	期首	新規	退会	期末	IN	SL
滋賀	5	0	0	5	3	2
京都	10	0	0	10	2	8
大阪	25	0	1	24	4	20
兵庫	14	0	0	14	1	13
奈良	7	0	0	7	1	6
和歌山	1	0	0	1	0	1
鳥取	3	0	0	3	0	3
島根	2	0	0	2	2	0
岡山	7	0	0	7	3	4
広島	1	1	0	2	1	1
山口	5	0	0	5	2	3
徳島	2	0	0	2	0	2
香川	0	0	0	0	0	0
愛媛	0	0	0	0	0	0
高知	1	0	0	1	0	1
福岡	58	2	0	60	16	44
佐賀	0	0	0	0	0	0
長崎	3	0	0	3	1	2
熊本	11	0	0	11	2	9
大分	13	1	1	13	3	10
宮崎	7	0	0	7	1	6
鹿児島	0	0	0	0	0	0
沖縄	7	0	0	7	1	6
海外	2	0	0	2	1	1
	788	9	39	758	202	556

2011 年度の里親口数は期首＋新規であるが、
教育支援金完納者数は、以下のとおりであった。
対スリランカ 569 名 対インドネシア 205 名

お知らせ

C.P.I.本部事務局への電話は、一通話10円の IP 番号にお願いします。
事務局の電話代節約にもつながります。

050-5534-9384

地域の公共スペースでの展示会を開いてください。

例：京都で行って戴いた展示会のレイアウトを写真でお見せします。



《告知板》ご存知ですか！ <http://www.cpi-mate.gr.jp>

☆☆☆ C.P.I.ホームページになるべく頻繁にご訪問下さい。

また、周囲の方々に知らせてください！

YAHOO、GOOGLE、GOOなどのポータルサイトで、『CPI 教育里親』で検索して戴くこともできます。

ホームページから、会長の **Face book** にリンク できます。

会長からのメッセージは、頻繁に更新されています。

また、トップページにある“ボタン”をクリックしてください。盛りだくさんの情報があります。

- C.P.I.を知りたい、知らせたい の情報、会員への申込みも WEB ページから。
- 新聞記事で見る C.P.I.の活動があります。
- C.P.I.会員専用ページは、充実しています。
- 事業報告、決算報告、現地会報のバックナンバーもあります

